＜事務局便り＞

平成 20 年度炉物理部会運営委員

部会長　（1 年）	松村　哲夫（電力中央研究所）
副部会長（1 年）	肥田 和毅（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ﾆｭｰｸﾘｱ･ﾌｭｴﾙ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ）
庶務幹事（1 年）	亀山　高典（電力中央研究所）
庶務幹事（2 年）	中 隆文（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ﾆｭｰｸﾘｱ･ﾌｭｴﾙ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ）
部会等運営委員会担当運営委員	岩崎　智彦（東北大学）
編集委員会担当運営委員	北田 孝典 (大阪大学)
シグマ委員会担当運営委員	森　貴正（日本原子力研究開発機構）
HP 担当幹事	外池　幸太郎（日本原子力研究開発機構）
HP 担当幹事	須山　賢也（日本原子力研究開発機構）
HP 担当幹事	奥村　啓介（日本原子力研究開発機構）
財務小委員会担当幹事（1 年）	巽　雅洋（原子燃料工業）
財務小委員会担当幹事（2 年）	卞　哲浩（京都大学原子炉実験所）
編集小委員会担当幹事（1 年）	東條　匡志（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ﾆｭｰｸﾘｱ･ﾌｭｴﾙ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ）
編集小委員会担当幹事（2 年）	渡邉　将人（中部電力　電力技術研究所）
セミナー小委員会担当幹事（1 年）	肥田 和毅（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ﾆｭｰｸﾘｱ･ﾌｭｴﾙ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ）
セミナー小委員会担当幹事（1 年）	中 隆文（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ﾆｭｰｸﾘｱ･ﾌｭｴﾙ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ）
学術交流小委員会担当幹事（1 年）	辻　雅司（北海道大学）
学術交流小委員会担当幹事（2 年）	伊藤 卓也（原子燃料工業）
学生・若手小委員会担当幹事（1 年）	小嶋　健介（日本原子力研究開発機構）
学生・若手小委員会担当幹事（2 年）	大岡 靖典（原子燃料工業）

編集小委員会からの御願い

部会報に対するご意見・ご要望などがございましたら、編集小委員会までお知らせ下さい。また、部会報の原稿として、「部会員の声（自由投稿欄）：内容不問で自由に投稿・意見を述べられる場」を常時募集しています。また、部会ニュース（ホームページに掲載）の原稿もございましたらお知らせください。

連絡先：編集小委員会（会報担当）
東條　匡志　　Masayuki.Tojo@gnf.com
渡邉　将人　　Watanabe.Masato@chuden.co.jp

炉物理部会員の名簿は、日本原子力学会の名簿を基づいて作成しております。学会名簿は､部会報の郵送､部会メーリングリストの発信先Eメールアドレスなどに使用されます。勤務先、メールアドレス等に変更がある場合には、速やかに日本原子力学会に登録情報の変更手続きをして頂くようお願いいたします。変更手続きは、以下の URL からオンラインで申請が可能です。

http://wwwsoc.nii.ac.jp/aesj/member/henkou.html

日本原子力学会炉物理部会 第29回総会議事録

日時：平成20年3月28日（金）12：00 ～ 13：00
場所：大阪大学（日本原子力学会2008年春の年会L会場）
配布資料：
1. 平成19年度炉物理部会賞　受賞概要
2. 第4回日韓サマースクールの実施について
3. ICAPP国際会議
4. 平成19年度決算案
5. 平成20年度炉物理部会運営委員交代（案）
6. 平成20年度予算案
7. 炉物理部会　平成20年度夏期セミナーの開催予定（案）
8. 「アクチノイド・マネジメントに関する炉物理実験施設」特別専門委員会 設立申請書（案）

議事：
（進行　平成19年度 代谷部会長）

1）平成19年度炉物理部会賞の贈呈（配布資料1）

代谷部会長（京大炉）より、Sidik Permana氏（東工大、配布資料1）に第1回炉物理部会賞が贈呈され、表彰状と副賞が手渡された。

2）平成19年度活動報告

- 部会長報告

代谷部会長より、以下の活動についての報告が行われた。

- 平成20年度（2008年度）炉物理夏期セミナーの幹事機関がグローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパンになったことが報告された。
- 平成19年12月6日に「アクチノイド・マネジメントのための炉物理と将来の実験施設」シンポジウムが開催され、シンポジウムの内容が「炉物理の研究　第60号（2008年3月）」、pp. 37-41に掲載されていることが報告された。
- 4部会合同日韓サマースクール（配布資料2）が平成20年8月6日（水）～ 8日（金）に九州大学で開催されること、炉物理部会から運営委員として田渕士郎委員（三菱重工業）、辻雅司委員（北大）を選出したことが報告された。
- フェロー会員として、炉物理部会推薦の平成17年度部会長山根義宏氏（名大）が認められたことが報告された。
- 2008年春の年会企画セッションとして、3月28日13時 ～ 14時半「J-PARC核変換実験施設の現状と展望」の開催が告知された。
- OECD/NEAパンフレットが4月に炉物理部会員へ配布されることが報告され、これに先立って部会員名簿を原子力学会の個人情報管理規程に基づき OECD/NEA へ提供したとの説明があった。
- ICAPP国際会議（配布資料3）が2009年5月東京で開催されることが紹介され、炉物理部会員の積極的な投稿、参加が促された。

- 決算報告（財務小委員会）（配布資料 4）

巽委員（原燃工）より、配付資料 4 に基づき報告があり、了承された。

- 編集活動報告（編集小委員会）

代谷部会長より、2009 年 4 月号として原子力学会 50 周年記念誌が発行されるとの報告があった。

3)　平成 20 年度運営委員の選出（配布資料 5）

代谷部会長より、配付資料 5 に基づき平成 20 年度運営委員（案）の紹介があり、了承された。

（進行　平成 20 年度 松村部会長）

4)　学会委員会報告

- 部会等運営委員会報告（部会等運営委員）

岩崎委員（東北大）より、秋の大会の企画セッション案および部会活動報告を学会事務局へ早期に提出するよう要請があった。

5)　平成 20 年度の活動について

- 平成 20 年度予算案（財務小委員会）（配布資料 6）

巽委員より、配付資料 6 に基づき報告があり、了承された。原子力学会が社団法人から公益法人へ移行するに当たり、部会として経理上考慮すべき課題（繰越金の扱いなど）について議論が行われた。

- 第 40 回炉物理夏期セミナーについて（セミナー小委員会）（配布資料 7）

肥田副会長および中庶務幹事（いずれもグローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン）より、配布資料 7 に基づき平成 20 年 8 月 4 日（月）～6 日（水）に第 40 回炉物理夏期セミナーが箱根で開催されること、銀行口座開設のために 2008 年度夏期セミナー実行委員会要領を作成したことが報告された。

- 日韓合同セッションについて

松村部会長（電中研）より、2009 年春の年会時に日韓合同セッションが開催予定であることが報告された。

- 平成 20 年度部会表彰について

松村部会長より、2008 年秋の大会（9 月 4 日 ～ 6 日高知工科大学）時に平成 20 年度炉物理部会賞の表彰を行うことが報告され、スケジュール案が了承された。

6)　その他

- 炉物理部会メーリングリストの更新について

須山 HP 担当幹事（JAEA）より、学生の就職などで炉物理部会メーリングリストに登録されてい

るアドレスが変更される場合は速やかにHP担当幹事へ連絡するよう要請があった。

● 「アクチノイド・マネジメントに関する炉物理実験施設」特別専門委員会の設立について
大井川氏（JAEA）より、配布資料8に基づき、当委員会を設立準備中であり、各機関から多数の参加を期待しているとの報告があった。

● 炉物理に関する自由討論会の提案
松村部会長より、今後の炉物理部会の活動充実に向けた自由な討論会を開催したいとの提案があり、関係者で実施計画（6月頃、電中研大手町にて）を検討することとした。

以上

日本原子力学会炉物理部会第 30 回会員総会　議事録

平成 20 年 9 月 12 日

日時　平成 20 年 9 月 6 日（土）12：00 ～ 13：00
場所　高知工科大学（日本原子力学会 2008 年秋の大会 A 会場）

配布資料
　日本原子力学会炉物理部会第 30 回会員総会　議事
　30-1：平成 20 年度(第 2 回)炉物理部会賞の概要
　30-2：第 40 回炉物理夏期セミナー報告
　30-3：第 4 回日韓合同サマースクール（加速器・ビーム科学、核データ、放射線工学、炉物理)報告
　30-4：「次世代炉物理実験施設活用方策」検討会　開催案内
　30-5：平成 20 年度炉物理部会収支予算(変更案)・収支中間報告
　30-6：「炉物理の将来展望に関する討論会」会議報告
　30-7：「炉物理の将来展望に関する討論会」の今後の進め方について
　30-8：核データ・炉物理に関する国際シンポジウムの開催について
　30-9：次世代軽水炉での 5wt%超燃料開発への取り組み
　30-10：日本原子力学会創立 50 周年記事依頼

議事
1. 平成 20 年度(第 2 回)炉物理部会賞の表彰
　平成 20 年度(第 2 回)炉物理部会賞の選考結果、概要などが配布資料 30-1 をもとに松村部会長から報告された後、受賞者(中部電力 渡邉氏、JAEA 西原氏は代理)へ表彰状・副賞が松村部会長から授与された。受賞者を代表して渡邉氏から談話が述べられた。

2. 第 40 回炉物理夏期セミナーの報告
　第 40 回炉物理夏期セミナーの概要と収支決算が配布資料 30-2 をもとに肥田、中セミナー両幹事から報告された。また、松村部会長から次期セミナー幹事機関として武蔵工大に要請中であることが紹介された。

3. 第 4 回日韓合同サマースクールの報告
　第 4 回日韓合同サマースクールの概要が辻学術担当幹事から配布資料 30-3 をもとに報告された。本スクールには炉物理部会から辻幹事と東工大 石田氏が講師として派遣された。

4. 次世代炉物理実験施設活用方策検討会の設立と承認
　次世代炉物理実験施設活用方策検討会の設立経緯が松村部会長から報告された後、設立主旨と第 1 回検討会の概要などが配布資料 30-4 をもとに佐々検討会幹事から報告された。炉物理実験施設の新規設立の必要性、教育面も含めて日本全体で広く検討する意義などが議論された後、本検討会の設立が承認された。今後も検討会開催毎に、炉物理部会で参加者を募ることが佐々幹事より述べられた。

5. 平成 20 年度予算の一部変更の承認と収支の中間報告
　上記 4. の検討会設立に関連した平成 20 年度予算の一部変更案と中間収支が配布資料 30-5 をもとに

巽財務担当幹事から報告された。JAEA からの賛助金による収入および上記検討会の委員旅費による支出にともなう予算の一部変更が承認された。

6.炉物理の将来展望に関する討論会の報告

第１回炉物理の将来展望に関する討論会の概要が配布資料 30-6 をもとに松村部会長から報告された。、第 2 回の開催が配布資料 30-7 をもとに松村部会長から提案され、第 1 回で示されたテーマに関する討論会の開催準備を進めることとした。

7.核データ・炉物理の日韓合同セッション／国際シンポジウムの提案

原子力学会 2009 年春の大会で核データ・炉物理の合同セッションが計画されているが、これを拡大した国際シンポジウム開催(春の大会翌日 3 月 26 日の予定)が配布資料 30-8 をもとに名古屋大学 山本氏から提案された。本提案は前日の核データ部会会員総会でも行われた。炉物理部会では本シンポジウム開催に向けた調整を開始することとした。

8.次世代軽水炉での 5wt%超燃料開発への取り組み

次世代軽水炉プロジェクトとその中で利用される 5wt%超燃料の開発状況が配布資料 30-9 などをもとに東芝 三橋氏から報告された。炉物理部会への期待(学会標準、臨界ハンドブック整備などの協力)が示され、今後も本プロジェクトの進捗状況を本部会へ適宜報告し、本部会との連携を議論したいとの説明があった。

9.原子力学会プログラム編成委員の選出

2009 年春の年会からプログラム編成委員を各部会から選任することとなり、炉物理部会から 5 名を選任（留任１名、新任４名)することが松村部会長から報告され、了解された。

10.原子力学会誌 50 周年記念記事の執筆

原子力学会誌 50 周年記念記事の炉物理部会分の執筆要請が配布資料 30-10 をもとに松村部会長から紹介され、部会員による執筆への協力が要請された。

以上

編集後記

平成 20 年度の編集が終わり第 61 号を会員の皆様のお手元に届けることができ、原稿の執筆にご協力していただいた方々に心から御礼申し上げます。

昨年の米国に端を発した世界的な厳しい経済情勢に、日々の新聞には“人員削減”や“大幅な経常赤字”といったネガティブな見出しが多いように思います。

幸いにも、炉物理部会に関係する方々の多くは、大学や研究機関、原子力関係企業などの、比較的不況の影響が少ない業界に所属しておられる方が多いものと推察します。私自身、このような不景気にもかかわらず、これまで同様、なんとか所属会社に籍を置くことが許され、日々の仕事が続けられることに感謝するとともに、この業界に就職することを選んだ選択は間違っていなかったと、安堵しているしだいです。

とはいえ、私たちの業界においても、やはり可能な限りの経費削減努力が各組織にて行われているものと思います。昨年はスイスにおいて Physor2008 という国際会議が開催され、日本からもたくさんの方が参加されて見えましたが、2009 年以降、国際会議への参加人数は減ることもあるかと予想されます。

今回の第 61 号では、国際会議報告を名古屋大学の多田さんの記事に集約させていただきました。そのため、例年の「炉物理の研究」にくらべ、今号は見劣りする部分があるのも事実であり、この点についてお詫び申し上げます。従来、編集小委員はいくつかの大学研究室に所属する若手研究者の方々から、海外の学会に参加された方々と連絡をとり、国際会議などの参加報告の執筆依頼をしておりました。しかし、ひところに比べ、海外発表などに参加する学生さんの所属組織も限られてきており、とくに企業に所属する編集小委員の場合、書き手を探す苦労が負担となっているためであります。

今回から新たに、炉物理部会賞を受賞した方々に、研究内容のご紹介を頂く記事を掲載しました。炉物理部会賞を受賞される方は、今、この分野に於ける“旬”の方々であり、炉物理部会のひとつの流れを作っていらっしゃる方々でもあります。従って、受賞者の方々の炉物理的な内容に触れることは、新たな視点で実践的な内容を満喫いただけるものと思います。

今号では、小林啓祐先生に大きな記事の執筆をお願いしました。その記事からは、小林先生が現在も元気にご活躍される様子をうかがう事ができました。来年以降、小林先生のような炉物理の世界を引っ張ってこられた方々から、同様の近況報告のような記事がいただければ、私に代わる編集小委員の大きな助けになることと思います。

「炉物理の研究」第 61 号がより多くの方々に興味を持っていただければ幸いです。

（編集小委員会：東條　匡志）